

# 神戸だより

台湾交流支援の会 2019.1発行 Vol.15

新年あけましておめでとうございます

< 光りの芸術『神戸ルミナリエ』 > 武藤 龍雄

『神戸ルミナリエ』は、大震災の起こった1995年の12月に初めて開催されました。阪神・淡路大震災犠牲者の鎮魂の意を込めるとともに、都市の復興・再生への夢と希望を託するもので、以来、震災の記憶を語り継ぎ、都市と市民の「希望」を象徴する行事として、毎年開催、今年2018年で24回目を迎えました。

2018年の開催期間は年12月7日(金)～12月16日(日)の10日間、開催場所は旧外国人居留地から東遊園地で毎夜18:00ごろ点灯され、21:30(金土のみ22:00)に消灯されました。

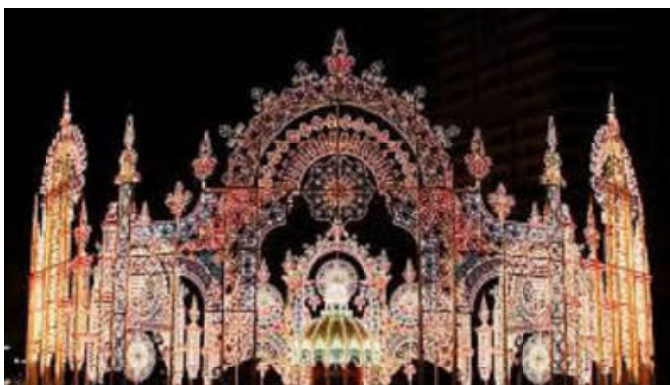
ルミナリエの原型はヨーロッパのバロック時代に盛んに創られた光の魅力を駆使した建築物で、その後イタリア南部において電気照明を使用した幻想的な光の彫刻に変化を遂げました。神戸のルミナリエもイタリアの工房の職人たちにより設計・施工・監修されています。作品に使用する電球数は約51万個で全てLED電球を使用、見事な輝きに観客からは大きな歓声が上がっていました。



今年の観客動員数は156万人であったと報告されています。

ルミナリエの開催には約5億円もの巨額の費用が必要ですが、兵庫県、神戸市他地元の団体、企業などが協賛金を拠出、会場での募金も4310万円が集まりました。

鎮魂と復興・再生への夢と希望の象徴、「神戸ルミナリエ」を是非これからも続けて行って欲しいものです。



## < 消防出初式 > 小高 功

神戸市の消防出初式が、1月6日朝10時から神戸港のメリケンパークで開催されました。おおよそ500人の消防士と45両の消防車、9隻の消防艇、2機のヘリコプターが参加しております。式典では先ず消防組織のトップである神戸市長が、消防士と神戸市民に対し2019年の消防計画を披露し、火災と近年多くなっている自然災害からの安全確保に向けた盤石の対応と確実な行動を求めておりました。続いて消防音楽隊の入場・演奏に続き音楽に誘導されて最新の各種消防車が次々に登場し紹介されます。小型ながらインパクトある形の水陸両用車が目を引きましたが、最後までどうゆう場合に使われるのか想像できませんでした。幼稚園児の「未来っ子消防隊」の防火パレードは、他の出初式にもつきもののようですが、そのかわいらしさには思わず笑みが出てしまいます。



ヘリコプターが1機飛来し、会場の上空でホバーリング、人命救助の訓練が行われました。そしてポンプ操法披露に始まる総合訓練です。頭上から大量の海水の飛沫が降りかかってきます。構えたカメラのファインダーの中も濃霧の中のように真っ白、すごい迫力です。埠頭の岸壁に沿って並んだ多数の放水銃は一斉に放水し、その先の海上に浮かぶ消防艇からも水がなん条も高く舞い上がっています。そして上空の飛沫の中からヘリコプター迄現れ、まるでアメリカのアクション映画を見るようでした。

進行は結構遅れ、11時30分位には終わるはずの総合訓練が始まったのが11時30分過ぎ、多数の消防士が緊張感を漂わしながら「後は頼む！」と言って帰っていきました。

「火事はいつでも待ったなし。消防署を手薄のままにはできない。」と思い当たりました。

